

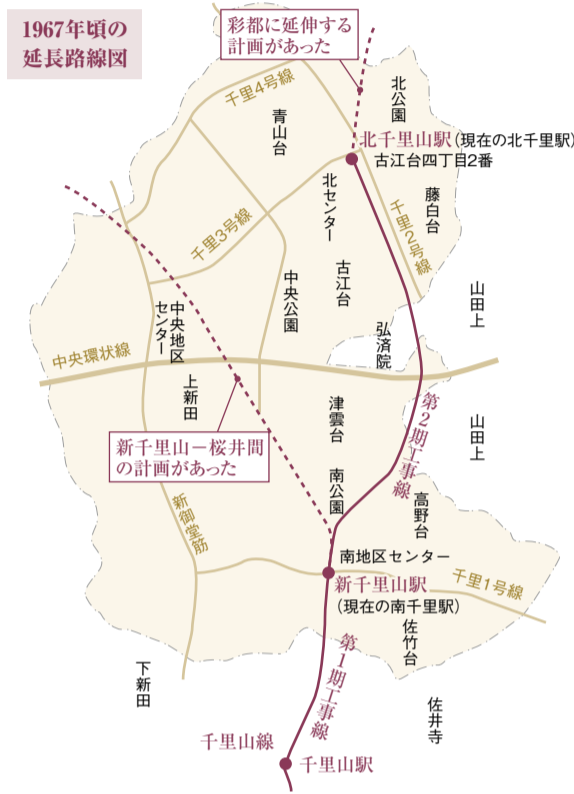


2000年頃の彩都西部地区。造成工事後、区画されたばかりの空撮写真。

1964年、当時の大阪府知事と阪急電鉄のトップが会談して、大阪府に万博を誘致することに合意した。万博開催用地の約4分の1は、阪急が所有していた山田地区であったため、府は阪急からその土地を購入した。阪急はその土地の売却費を活用して、共有林だった立会



1994年9月、財団法人大阪府埋蔵文化財協会による発掘調査が始まる。



1967年頃の延長路線図

計画 万博誘致への熱気が高まりつつあった1960年代の千里は、ニュータウンの開発もあり、鉄道網の整備が進んでいた。万博の来場者の輸送力を確保するため、大阪府は御堂筋線を北進させ、千里中央で右折して万博メイン広場へ誘導する計画を提案。しかし当時阪急は、千里山

国際文化公園都市 彩都の地に 万博終了後、千里中央を含む北摂地域の道路網の整備や都市施設の充実により、千里のポテンシャルが急速に上昇。そんな折、国立民俗学博物館の梅棹忠夫館長(当時)が「千里

国際文化公園都市 彩都の地に

しかし万博終了後、千里中央を含む北摂地域の道路網の整備や都市施設の充実により、千里のポテンシャルが急速に上昇。そんな折、国立民俗学博物館の梅棹忠夫館長(当時)が「千里

開発の凍結 万国博覧会が開催された1970年、都市計画法が改正。大阪府の開発抑制方針により、阪急が取得した彩都の土地は市街化調整区域に編入され、開発は事実上凍結状態に置かれた。

開発の凍結

現在、彩都に住む人々の生活を支える重要な路線となっている。



2016年11月の彩都西部地区の空撮写真。

国際文化都市 実現に向けて 阪急は、彩都の開発が関西の経済活性化の起爆剤になると考え、この構想に呼応し、行動を

国際文化都市 実現に向けて

開始した。1986年11月には、阪急を含む民間企業7社と大阪府、茨木市、箕面市、住

レッチワース 阪急は、5万人都市を目指す彩都のまちづくりにより多大な時間を費

レッチワース

開始した。1986年11月には、阪急を含む民間企業7社と大阪府、茨木市、箕面市、住

取材を終えて 1960年代、日本が劇的に変化を遂げる時代に彩都の計画が始まりました。日本万国博覧会、千里ニュータウン、箕面森町の計画も同じころです。そして阪急電鉄の延伸などの交通のインフラ整備も急速に進み、今日の北摂の基盤ができた時代です。今年、新名神高速道路の北摂区間の開通。彩都は茨木の1Cのすぐ近くです。これも見据えての開発だったのでしょうか。北摂の先輩たちの先見の明に、改めて敬服の念を抱き取材した。



彩都の現在のMAP

彩都の発展 2004年4月、いよいよ彩都がまちびらきした。阪急不動産を中心として大規模マンションや戸建て住宅が

シテイライフ編集部 尾浴芳久

30th Anniversary CityLife Archives シティライフ創刊30年記念企画 シンテイライフアーカイブズ 北摂の歴史記録 第21回 国際文化公園都市 彩都 歴史案内人 取材協力 中村篤郎さん

彩都の発展